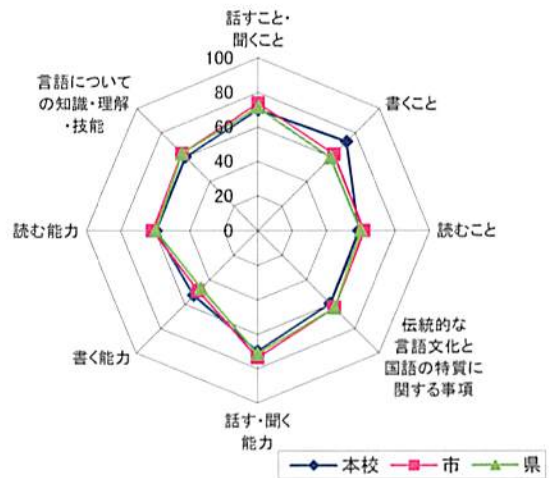


宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.9	73.8	71.3
	書くこと	72.7	62.2	59.6
	読むこと	58.6	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.6	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	69.9	73.8	71.3
	書く能力	52.7	49.2	46.8
	読む能力	59.4	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	60.2	62.9	62.9



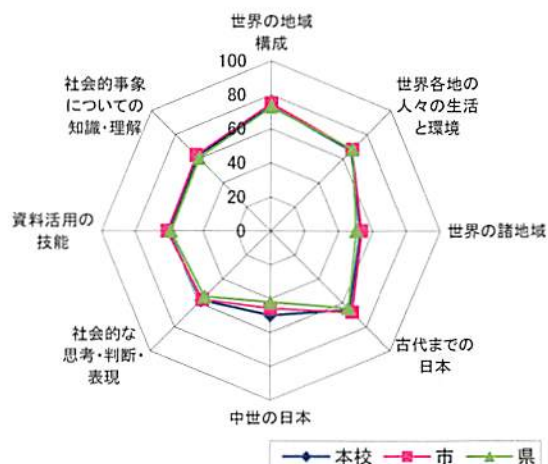
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○意見の述べ方や話し合いの進め方を聞き取ることはおおむねできていた。 ●全体的には県平均を1.4ポイント、市内平均を3.9ポイント下回った。話の内容を正確に聞き取ることに課題がある。	話の内容を正確に聞き取ることを苦手とする生徒が多いため、定期的・継続的に聞く活動を取り入れる。短文の正確な聞き取りや、相手の言ったことを他者に発表するグループ学習などを通して、聞く力を伸ばしていく。
書くこと	○県平均を5.9ポイント、市内平均を3.5ポイント上回った。特に二つの詩を比較し、選んだ詩の表現のよさについて書く問題では、県平均を12.6ポイント、市内平均を10.0ポイントも上回った。	問題文を読み、全ての条件を把握して書くことを苦手とする生徒が多いため、条件に沿った文章を書く活動を取り入れる。複数の条件を提示することで、それに沿った文章を書く力を伸ばしていく。また、自分の文章が提示された条件の全てを満たしているかを確認することを習慣づけたい。
読むこと	○小説における文章内の表現に関する問題では、県平均を6.0ポイント、市内平均を3.1ポイント上回った。 ●領域全体では県平均を2.1ポイント、市内平均を0.2ポイント下回った。	問題となる部分について「なぜか」「どういうことか」を考えることを苦手とする生徒が多いため、説明文においては筆者の主張の根拠を考える活動を、また小説においては登場人物の心情の変化やその原因を読み取る活動を定期的・継続的に取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みはおおむねできている。 ●全体的には県平均、市内平均をともに2.7ポイント下回った。特に現代かなづかいの問題を苦手とする生徒が多い。	漢字や文法を苦手と感じている生徒が多い。今後は、似た形の部首や漢字などについて説明をしたり、漢字テストを定期的・継続的に実施したりすることで、漢字の読み書きの定着を図る。また、文法においては前学年の内容を復習する活動を取り入れることで、既習内容の定着を図る。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	73.4	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	66.9	67.5	67.8
	世界の諸地域	52.7	53.4	50.2
	古代までの日本	65.9	68.0	64.6
	中世の日本	49.8	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	58.0	57.3	55.0
	資料活用技能	60.7	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	61.9	62.9	60.3



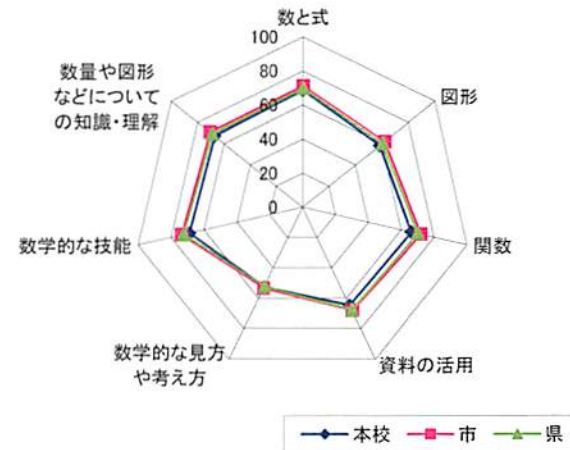
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○県の平均は0.6ポイント上回った。 ●市の平均は1.4ポイント下回った。赤道などの基本語句の正答率が、市・県を下回っている。	6大陸や3大洋、国名や国の場所など、地理の最も基本となる部分である。地図や地球儀を効果的に使用し、世界をしっかりとらえさせていくようにしたい。
世界各地の人々の生活と環境	●市の平均を0.6ポイント、県の平均を0.9ポイント下回った。	まずは地図や資料で、気候帯の分布についてと、各気候帯の特徴をしっかりと理解させたい。さらに、各気候帯での人々の生活については、自分たちの普段の生活と比較し違いを理解し、その生活様式と気候との結びつきなども考えられるよう指導していきたい。
世界の諸地域	○県の平均は2.5ポイント上回った。偏西風などの基本的な語句に関する問題は、市・県の平均をともに大幅に上回っている。 ●市の平均は0.7ポイント下回った。	資料からの読み取りの論述問題では、アジアに関する問題は市・県の平均を上回っているが、ヨーロッパに関する問題は市・県の平均をともに下回っている。論述が不得意と言うわけではないが、地域によって理解度が違うので、苦手な地域を重点的に復習していく。
古代までの日本	○県の平均は1.3ポイント上回った。 ●市の平均は2.1ポイント下回った。仏教に関する基本的な問題の正答率が、市・県ともに下回っている。	授業で学習してから時間がたっている分、内容を忘れてしまい、基本的な語句の正答率も悪くなっている。古代についての復習や、時代の流れの確認などを定期的に行うようにする。
中世の日本	○市の平均は4.0ポイント、県の平均は7.6ポイント上回った。	中世の日本に関しては、市・県の平均を大幅に上回った。他の範囲と比べて中世の日本は、一番最近授業で学習した範囲である。学習内容をしっかりと理解できているので、知識を定着させるための工夫が必要となる。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.8	71.2	69.8
	図形	58.3	61.9	60.2
	関数	66.1	72.1	70.1
	資料の活用	64.6	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	52.4	53.4	52.1
	数学的な技能	69.0	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.3	70.8	69.1



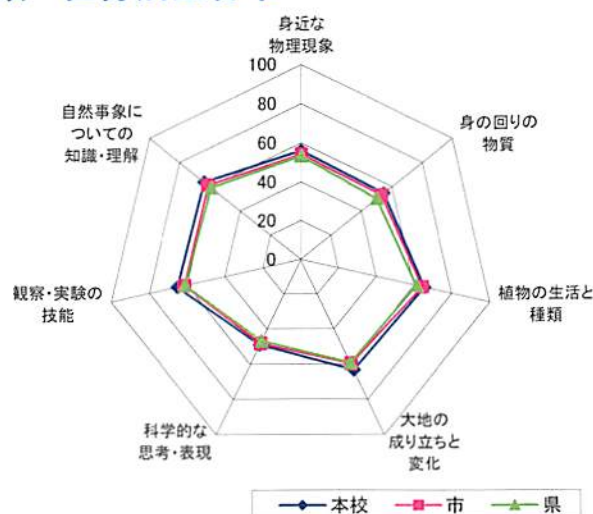
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○規則性に関する問題の正答率は県の正答率を上回っている。発展させた事象を数学的に表現することは得意としている生徒が多い。 ●正負の数の計算でつまづく生徒が多く、文字式の計算も苦手としている。	・正負の数の四則混合の計算を苦手としている生徒が多いので、それぞれの計算を十分に習得させ、その上で計算の順番等を意識させて四則混合の計算に取り組ませたい。
図形	○立体の側面積や体積をもとめることができる。 ●図形の移動や、空間の位置関係に関する知識が不足しているため、正答率が低い。	・図形の位置関係や移動に関する知識を身に付けられるように指導をしたい。 ・立体について、基本的な体積や表面積を求めることができる生徒が多いので、複雑な問題に取り組ませたい。
関数	○反比例の関係を見つける力を身に付けている。 ●比例の関係について、グラフを書いたり、式を求めたりすることを苦手としている。	・関数について、表から式を求めたり、式からグラフを書いたりなど表と式とグラフの相互関係を理解させたい。また、座標を求めることが苦手な生徒が多いので、もう一度復習したい。
資料の活用	●ヒストグラムや度数分布表からいろいろな情報を読み取ることを苦手としている生徒が多い。	・度数分布表やヒストグラムに関する用語をもう一度確認し、理解させる。また、そこからどんなことが読み取れるかを考えるような学習活動をさせたい。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	56.1	54.0	53.3
	身の回りの物質	54.5	52.9	50.0
	植物の生活と種類	65.4	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	63.2	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	48.9	48.2	46.7
	観察・実験の技能	65.1	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	63.8	61.4	59.2



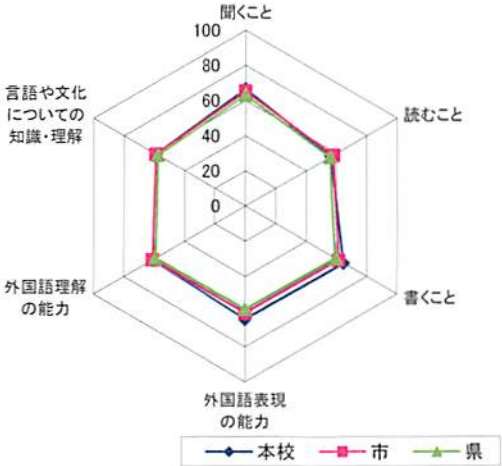
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県平均より2.8ポイント、市平均より1.9ポイント上回った。	・基本的な語句は覚えられている。 ・身近な現象と結びつけた指導を心がける。
身の回りの物質	○県平均より4.5ポイント、市平均より1.6ポイント上回った。 ●質量パーセント濃度を求める問題では、県平均より2.6ポイント、市平均より8.1ポイント下回った。	・基本的な語句は覚えられている。 ・質量パーセント濃度の問題など計算や応用的な問題になれるよう章末等に代表的な問題を解いていく。
植物の生活と種類	○県平均より4.3ポイント、市平均より1.3ポイント上回った。 ●植物の花のつくりは市平均より2.6ポイント下回った。	・顕微鏡の使い方はしっかり覚えられているので、今まで通り丁寧な説明を行っていく。 ・記憶の定着状況を確認するように、小テストを行っていく。
大地の成り立ちと変化	○県平均より4.1ポイント、市平均より4.6ポイント上回った。	・深成岩などのつくりは理解できているが、成因を誤解しているような生徒が見られるため、語句の暗記とともに、なぜそのようなつくりになるのか等、探求心を持てるように指導していく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.5	65.2	63.2
	読むこと	56.3	57.6	55.6
	書くこと	64.7	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	64.2	60.7	58.4
	外国語理解の能力	61.4	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	59.2	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全般的によくできている。基本的な問題については正確に問題文を聞き取ることができる。点数では県平均を上回っている。 ●曜日名などの簡単な単語はしっかり聞き取れるが、放送文全体から単語を聞き取る、というよう応用問題に関しては特に間違いが多かった。	・一問一答のような質問だけでなく、文章全体から読み取る力をつけるために、定期的または継続的に聞く活動を取り入れる。普段の授業では、生徒が聞き取りたいような話題を考えたり(oral introduction・small talkなどで)、聞き取るポイント(ネイティブの発音、5W1H)などを提示したりすることで、正確に聞き取れるようにする。
読むこと	○基礎・基本の問題はよくできている。5W1Hの問いに対してや、ある表現に対しての答え方において適切な応答文を選ぶことができた。 ●応用の表現の問いに対しては理解が不十分である。また、長文問題では、グラフから読み取ったり、ある代名詞が何を指しているのかなどが苦手なようである。	・長文に関しては、単語1つ1つからではなく、文章全体からどのような内容なのかを読み取れるようにする。まとまった英文を読む活動や、授業のウォームアップ時に口頭練習などを取り入れ、練習をする。
書くこと	○基本的な知識や表現が身についており、県の平均を大きく上回った。自分のことについても、つながりのある3文以上の表現を使って英文を書くことができた。 ●語句の並べ替えでは、listen to のような熟語や、形容詞の入る位置などが理解できていないと思われる。	・基本的なイディオムや単語の定着を継続して図るとともに、Yes、Noで答えられない問いに、適切な表現を用いて答えられる力をつける。自分のことについて書いたり、ある熟語やテーマに沿ったまとまりのある文を書かせたりする。